



7/15 2024  
(月・祝)

第1004回定期演奏会Cシリーズ

Subscription Concert C Series

会場：東京芸術劇場コンサートホール

【定期演奏会1000回記念シリーズ⑨】

7/16都響スペシャルと同演目

指揮／アラン・ギルバート

ヴァイオリン／榎本大進 (ベルリン・フィル第1コンサートマスター)

ヴィオラ／アミハイ・グロス (ベルリン・フィル第1ソロ・ヴィオラ奏者)

アイヴズ (ブラント編曲)：  
コンコード交響曲より「オルコット家の人々」

【アイヴズ生誕150年記念】 (約6分)

モーツァルト：  
ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲  
変ホ長調 K.364 (320d) (約30分)

ベートーヴェン：  
交響曲第5番 ハ短調 op.67《運命》 (約31分)

ホールでの  
過ごし方

- ◎携帯電話や音の鳴るモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中はお話ししないで静かに聴きましょう！周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

## PROGRAM NOTES

今日のコンサートでは、世界のトップオーケストラの1つであるベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の第1コンサートマスター樫本大進さんと、第1ソロ・ヴィオラ奏者のアミハイ・グロスさんがモーツァルトの作品で登場します。指揮のアラン・ギルバートさんはこれまでも都響とベートーヴェンの交響曲で共演を重ねてきました。今回は名曲《運命》です！

### アイヴズ（ブラント編曲）：コンコード交響曲より「オルコット家の人々」

アメリカの作曲家チャールズ・アイヴズ（1874～1954）は今年が生誕150年というメモリアルイヤーです。この曲はもともと、アイヴズがピアノ・ソナタ第2番として1911年から15年にかけて作曲したもので、「マサチューセッツ州コンコード1840-60年」というタイトルが付いています。この曲についてアイヴズが残した言葉によると、当時のコンコードの人々が関心を寄せた哲学や文学への印象が音楽で表されています。**第3楽章**にあたる「オルコット家の人々」は、作家ルイーザ・メイ・オルコットの書いたコンコードが舞台の小説『若草物語』にちなんでいます。本日演奏されるのは、ヘンリー・ブラントという作曲家がオーケストラ用に編曲したバージョンです。ほのぼのとした雰囲気が始まりますが、やがてオーケストラ全体が複雑で厚みのある響きを奏でます。「タ・タ・タ・ターン」というモチーフが何度も聞こえてきますが、これは、本日後半に演奏されるベートーヴェンの《運命》に基づいています。



Charles Edward Ives

### モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364 (320d)

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～1791）がこの作品を作ったのは23歳、1779年と考えられています。この夏、モーツァルトは演奏旅行に出かけていたパリから、故郷のザルツブルクに戻ってきました。都会のパリでは複数の楽器のソリスト（＝独奏者）がオーケストラとともに華々しく活躍する協奏交響曲がとても流行していました。モーツァルトはいち早くそのスタイルを取り入れようと、自分が得意としていたヴァイオリンとヴィオラという二つの弦楽器を独奏とするこの曲を書いたと言われています。



Wolfgang Amadeus Mozart



実は、この作品では独奏ヴィオラの楽譜だけ、半音低く書かれています。ヴィオラ奏者はいつもより半音高く弦をチューニングしておかなければ、みんなとの合奏ができません。そのため、弦は通常よりもピンと張ることになり、音に華やかさと豊かな響きがプラスされます。そんなヴィオラの音色や、ヴァイオリンとの掛け合い、オーケストラとのハーモニーに注目して聴いてみましょう。

## ベートーヴェン：交響曲第5番 八短調 op.67《運命》

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）は生涯に9つの交響曲を残していますが、第5番は4年以上の年月をかけて38歳の時（1808年）に完成させました。そのころのベートーヴェンは、難聴に苦しみながらも心を奮い立たせて、ピアノ・ソナタ第23番「熱情」、ピアノ協奏曲第5番《皇帝》、交響曲第6番《田園》などの名曲を次々と生み出しました。

《運命》の作曲で、ベートーヴェンはいくつもの新しいチャレンジをしました。たとえば、冒頭の「ダダダ・ダーン」という力強いモチーフは、4つの楽章に何度も現れて統一感を与えます。そのような交響曲の作り方は、当時としてはとても斬新でした。さらに使う楽器も革新的で、トロンボーン、ピッコロ、コントラファゴットという、それまで交響曲では使用されてこなかった楽器も加えました。また**第3楽章と第4楽章**とをつなげて演奏する「アタッカ」と呼ばれる手法も編み出しました。**第3楽章**の終わりはティンパニが「タタタン・タタタン」というリズムを静かに打ち、弦楽器が加わって徐々に響きが強まります。そしてオーケストラ全体が力強く鳴り響くところが**第4楽章**です。ベートーヴェンは2つの楽章をつなげることにより、暗く長いトンネルを抜け、輝く陽の光のもとに出たかのように、「暗から明へ」というドラマをはっきりと描き出したのです。



Ludwig van Beethoven

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

## PROFILE

ヴァイオリン（ベルリン・フィル第1コンサートマスター）

### 樫本大進 Daishin KASHIMOTO



© Keita Osada (Ossa Mondo A&D)

1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーの両国際音楽コンクールなど、5つの権威ある国際コンクールで優勝。ドイツを拠点にソリストとして演奏するかたわら、2010年に正式就任したベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターを務める。3歳よりヴァイオリンを始め7歳でジュリアード音楽院プレカレッジに入学、フライブルク音楽院でグスタフ・シェック賞を受賞し修士課程を修了。ロリン・マゼール、小澤征爾、マリス・ヤンソンスなどの指揮で、国内外のオーケストラと共演を重ねるほか、室内楽にも意欲的に取り組み、マルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメルらと共演。

使用楽器は、株式会社クリスコ（志村晶代表取締役）から貸与された1744年製デル・ジェス「ド・ベリオ」。

ヴィオラ（ベルリン・フィル第1ソロ・ヴィオラ奏者）

### アミハイ・グロス Amihai GROSZ



©marco borggreve

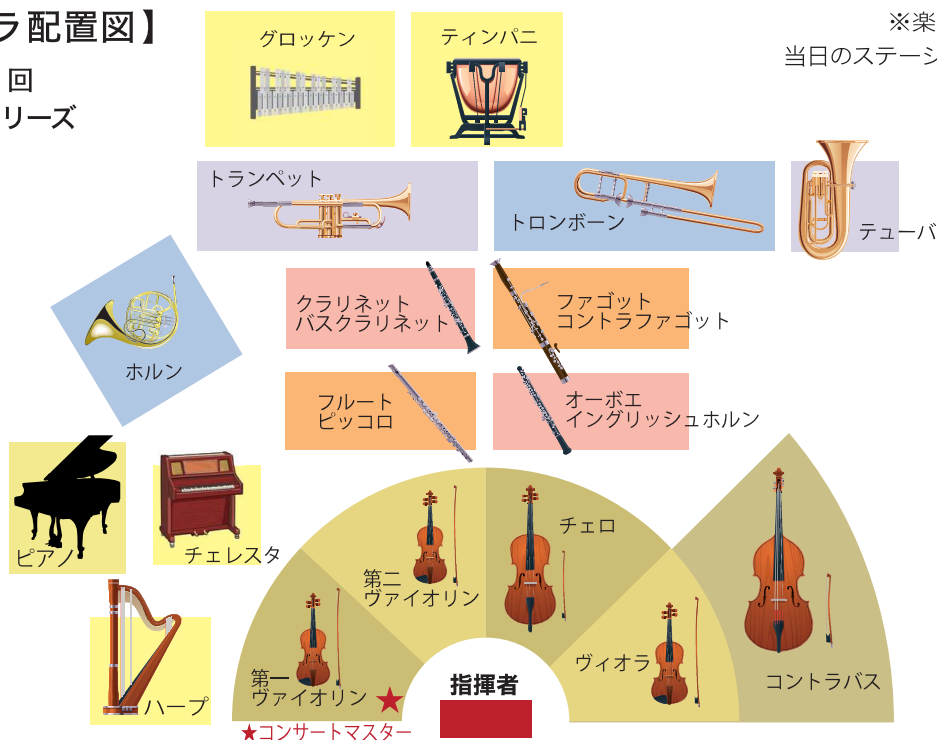
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1ソロ・ヴィオラ奏者。エルサレム弦楽四重奏団創設メンバーとしてキャリアを始め、2010年にベルリン・フィルへ入団、ソリストとしても活躍している。11歳の時、ヴィオラに転向しデイヴィッド・チェン、タペア・ツィンマーマン、ハイム・タウブに師事。ソリスト、室内楽奏者として様々なプロジェクトに携わり、イエフィム・ブロンフマン、内田光子、ダニエル・バレンボイムと共演。また、アムステルダム・コンセルトヘボウ、チューリッヒ・トーンハレといった世界の著名コンサートホールや、世界各地の音楽祭で演奏している。

使用楽器はガスパーロ・ダ・サロのヴィオラ（1570年製）で、個人コレクションより終身貸与されている。

## 【オーケストラ配置図】

7/15 第1004回  
定期演奏会 C シリーズ

※楽器の配置は一例です。  
当日のステージで確認してください。



© T\_Tairadate

指揮 (首席客演指揮者)

**アラン・ギルバート** Alan GILBERT, *Principal Guest Conductor*

東京都交響楽団首席客演指揮者、NDRエルプフィル管弦楽団首席指揮者、スウェーデン王立歌劇場音楽監督、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団桂冠指揮者を務めている。2017年まで8シーズンにわたってニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督を務め、芸術性を広げる活動が高く評価された。

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、パリ管弦楽団などへ定期的に客演するほか、オペラではメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座などへ登壇している。

メトロポリタン歌劇場とのDVD『ドクター・アトミック』(Sony Classical)、ルネ・フレミングとのCD『ボエム』(Decca) でグラミー賞を獲得。

## 東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立しました。都響(ときょう)という愛称で親しまれています。

東京文化会館(上野)を本拠地としてサントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。交響組曲『ドラゴンクエスト』(全シリーズ)や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動を展開しています。2021年7月に開催された【東京2020オリンピック競技大会】開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏(大野和士指揮/録音)を務めました。



© Rikimaru Hotta

<https://www.tmsso.or.jp/>



都響ヤングシートは、企業や団体からご支援をいただき、サントリーホールでのプロムナードコンサート、東京芸術劇場での定期演奏会Cシリーズなど、休日昼間の都響主催公演を中心に青少年をご招待し、オーケストラコンサートをお楽しみいただいています。ご支援企業については月刊都響をご覧ください。